



オートコールとAIによる災害時双方向 情報伝達システムの運用について

令和6年12月
陸前高田市防災局防災課



災害時双方向情報伝達システムは、災害時において、確実に避難情報をお伝えしなければならぬ方に対して、直接、電話で避難情報を発信するとともに、安否確認を行うシステムです。

なお、発信する情報は、避難情報や安否確認であり、通常時の防災行政無線の放送内容は、発信されません。

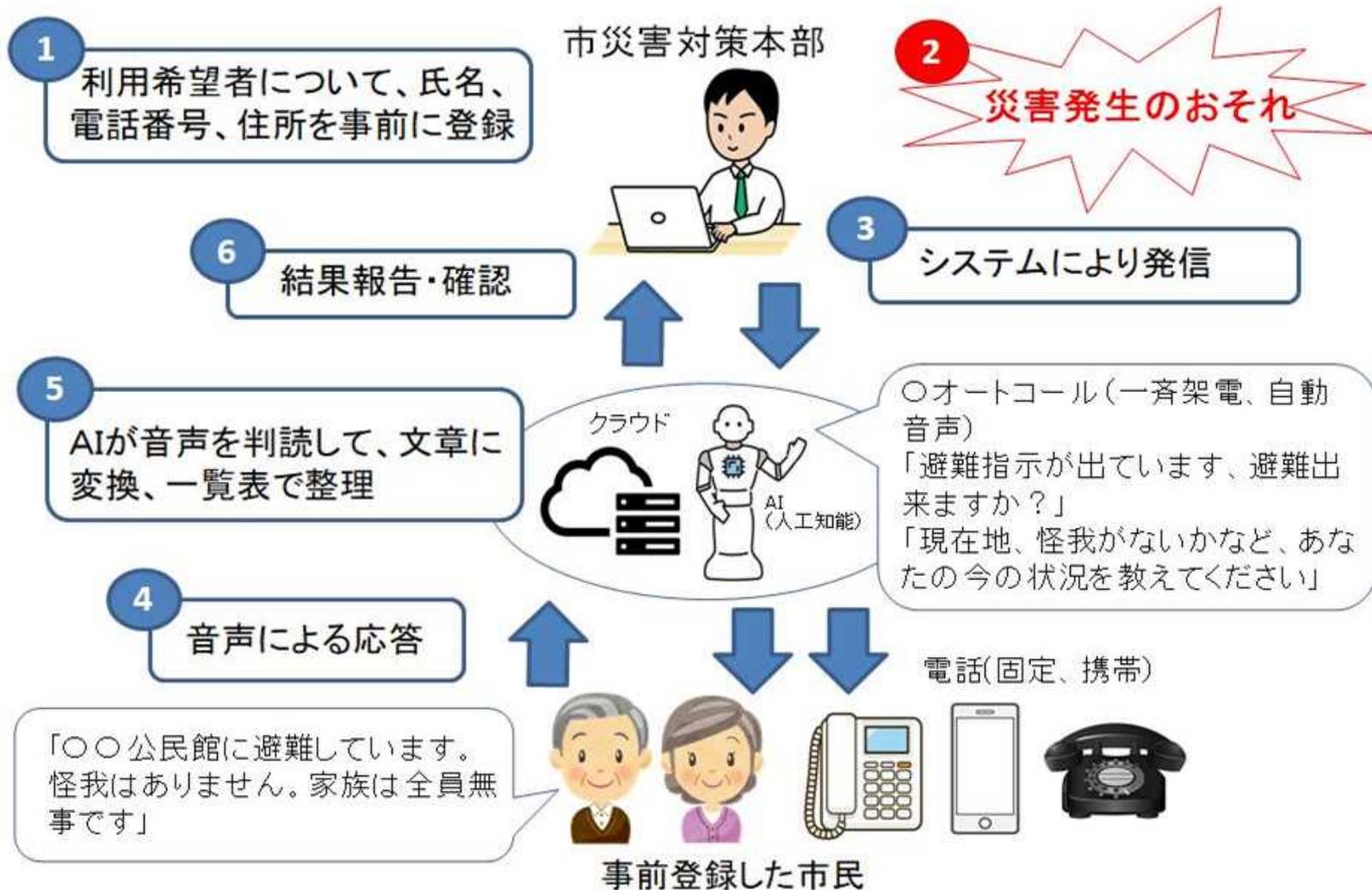


本システムを利用出来るのは、次の条件のどちらかに該当する方で、システムの利用を希望する方です。

- 1 災害警戒区域に住む65歳以上の方、または障がいがある方で、自ら避難することが困難で支援が必要な方
- 2 災害時孤立化想定地域[※]、または孤立化の可能性のある地域に住む方
[※]…本市地域防災計画で規定する大雨時の災害時孤立化想定地域を指します。



システムイメージ図





市では、次の場合に、システムから避難情報の発信、安否確認を行います。通常時の防災行政無線の放送内容は、発信されません。

災害種別	発信の対象となる条件	発信する情報
洪水・土砂	高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保(警戒レベル3相当以上)	高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保、安否確認(避難後)
津波	津波警報、大津波警報	安否確認(避難後)

※ 津波の場合、本システムの着信を待たず、すぐに避難する必要があるため、避難指示の発信は行いません。



- 利用希望者は、登録申請書を、市（防災課）に提出し、登録完了後、利用開始となります。登録できるのは、1人につき1番号で、固定電話、携帯電話、どちらでも可能です。
- 利用料は、無料です。
- 令和5年11月5日（日）から、運用を開始しています。
- 運用開始後は、年に1回程度、通信訓練を実施します。また、利用者の現況確認を実施します。



令和6年12月1日現在

事由別	登録者数	左記内訳(災害警戒区域、孤立化想定地域名称)					
		土砂		洪水		津波	
災害警戒区域に居住する65歳以上の者、又は障がい者	52	33		7		28	
孤立化想定地域に居住する者	48	雪沢	金屋敷	馬越	夏通	黒森	小黒山
		12	14	1	3	6	12
合計	100						

※ 災害警戒区域については、複数の区域に該当する場合があります。

災害への備え 市民再確認

陸前高田市は「世界津波の日」の5日、市民を対象とした津波避難訓練を実施した。自動音声で電話する「オートコール」と人工知能(AI)を組み合わせた「災害時双方向情報伝達システム」の訓練も行い、有事の対応を確認した。震度6弱の地震と大津波が発生した想定で実施。市

陸前高田市

民は大津波警報を受け、高台や指定避難所に走った。同システムを使った安否確認訓練も実施した。津波災害警戒区域で暮らす高齢者ら20人に一斉発信し、避難の可否や避難場所を確認。住民の回答データはAIで文字化され、災害対策本部に集められた。防災分野での運用は全国

「双方向情報伝達システム」運用開始

津波避難と安否確認訓練



対象者の安否や避難場所を確認する市職員

の自治体で初めて。市防災課の中村吉雄課長は「事前登録した市民の声をAIが認識し、大きなトラブルもなかった。今後は土砂災害などの警戒区域でも訓練を習も実施した。同日は、同市高田町のA

行い、万が一の事態に備えたい」と見据えた。

同日は、同市高田町のA
ハッセルタカ前消防・防
災フェスタと市秋季消防演
習も実施した。